



グリーンポトスニュース

61号：2002年9月

まだまだ、暑い日が続いていますが、暑さ寒さも彼岸までです。でも、体調管理には気をつけましょう。今月の話題は『みずぼうそう』です。

水疱瘡

水疱瘡は、水痘・带状疱疹ウイルスの感染により発症する、水疱を伴う疾患です。潜伏期間は2週間ほどです。感染初期は、虫さされ様の発赤で始まり、かゆみを伴います。数日で、周囲に発赤を伴う水疱が形成されます。最終的には、痂皮(かさぶた)が形成されます。通常、5~7日ですべての水疱が痂皮します。すべての水疱が痂皮するまで、感染力があるため、学校保健法にて登園登校は禁止されています。発熱は、ないものも高熱を持続することもあり、発病初期に多いです。

7ヶ月から1歳までに罹患すると重症化することが多いです。2歳以降は比較的軽症でなり、7歳以降再び、重症化します。白血病や、ステロイド剤内服中など免疫不全状態の小児は重症化し、時に致死的になることもあります。



治療は、発熱時は安静とし、水疱の感染を防止する意味からも、入浴を禁止します。抗生剤や、消炎剤を投与します。水疱ウイルスに対する、抗ウイルス剤を投与します。高熱の場合は、座薬などで対応し、水分は多めに摂取します。成人が罹患すると、高熱が続き、重症化することが多いので、入院治療の適応にもなってきます。

予防は、予防接種が第一です。水疱瘡を発症した患児に接触後72時間以内に予防接種を行った場合、ほぼ100%防御できます。家族内では最初の症例がいつ発症したか、他に感染源はないかを正確に把握することが困難な場合が多く、間に合わないことがあります。しかし、予防接種を行うと、水疱瘡の症状は軽症です。

予防接種は、1歳から接種可能です。重症化することが多い未罹患の成人は特に、また、幼児の場合も、5~7日間、登園登校はもちろん、外出も制限されますし、水疱の痕は成人まで残りますので、予防接種することをお勧めします。

かめざわクリニックでは、水疱瘡を始めとする予防接種を積極的に行っておりますので、ご相談ください。